遺伝子検査学演習Ⅱ(Graduate Seminar of Science Laboratiry for Molecular Analysis Ⅱ)

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
千原 猛、 大島 茂	1年次 後 期	選択	2	48	演習	あり	巻末掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	遺伝子検査学演習Ⅱでは、がん遺伝子に特徴的な異常を見出す学修、さらに、複数の遺伝子を一度に調べるがん遺伝子パネル検査についても理解を深める。また、コンパニオン検査、がん遺伝子プロファイリング検査などについても論文にて解説する。論文読解と討論を通じて学修を進める。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員（千原、大島）が講義を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「健康に対する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」及び④「臨床検査技師の役割を探求し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. がん遺伝子シーケンス解析について解説できる。 2. がん遺伝子パネル検査を症例を用いて解説できる。 3. コンパニオン診断について解説できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく／論文を精読するためには、予習を行うことが望ましく、指定論文の内容を概説できるようにしておくこと（各30分） 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／論文の内容をよく復習しておくこと。（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第 1 回	遺伝子配列およびその検索方法についての論文の読解と討論１	千原　猛
	第 2 回	遺伝子配列およびその検索方法についての論文の読解と討論２	千原　猛
	第 3 回	シーケンス解析についての論文の読解と討論１	千原　猛
	第 4 回	シーケンス解析についての論文の読解と討論２	千原　猛
	第 5 回	がん遺伝子パネル検査についての論文の読解と討論１	千原　猛
	第 6 回	がん遺伝子パネル検査についての論文の読解と討論２	千原　猛
	第 7 回	がん遺伝子パネル検査の臨床例についての論文の読解と討論１	千原　猛
	第 8 回	がん遺伝子パネル検査の臨床例についての論文の読解と討論２	千原　猛
	第 9 回	コンパニオン診断に関する論文の読解と討論１	千原　猛
	第 10 回	コンパニオン診断に関する論文の読解と討論２	千原　猛
	第 11 回	最先端のゲノム解析に関する論文の読解と討論１	千原　猛
	第 12 回	最先端のゲノム解析に関する論文の読解と討論２	千原　猛
	第 13 回	固形腫瘍における遺伝子検査学に関する文献読解１	大島　茂
	第 14 回	固形腫瘍における遺伝子検査学に関する文献読解２	大島　茂
	第 15 回	固形腫瘍における遺伝子検査学に関する文献読解３	大島　茂
	第 16 回	固形腫瘍における遺伝子検査学に関する文献読解４	大島　茂
	第 17 回	固形腫瘍における遺伝子検査学の討論とレポート作成１	大島　茂
	第 18 回	固形腫瘍における遺伝子検査学の討論とレポート作成２	大島　茂
	第 19 回	染色体異常症における遺伝子検査学に関する文献読解１	大島　茂
	第 20 回	染色体異常症における遺伝子検査学に関する文献読解２	大島　茂
	第 21 回	染色体異常症における遺伝子検査学に関する文献読解３	大島　茂
	第 22 回	染色体異常症における遺伝子検査学に関する文献読解４	大島　茂
	第 23 回	染色体異常症における遺伝子検査学の討論とレポート作成１	大島　茂
	第 24 回	染色体異常症における遺伝子検査学の討論とレポート作成２	大島　茂

評価方法 評価基準	講義参加態度、プレゼンテーション、レポートなどを合わせて総合的に評価（100%）する。		
教科書	特に定めない	参考書等	関連資料を講義の中で適宜紹介する。
学生への メッセージ	ゲノム解析など臨床検査では特殊検査になるが、一般的になりつつあり、多様な疾患が対象となっている。将来の臨床検査技師業務の拡大に向けて指導的立場になるようよく学修してほしい。		